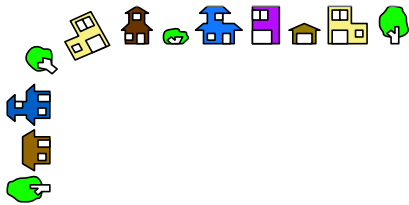


みどり山防災ニュース

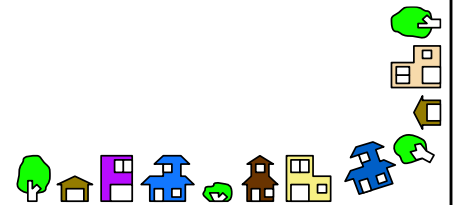
発行：三輪緑山自治会自主防災隊編集委員会

三輪緑山3-1-13 ☎044-987-7495



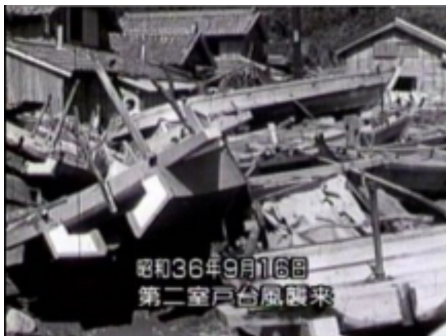
遺族を創らぬ

自主防災隊消火班 竹内良介



筆者は未だ直接的被災経験というものがない。如果说いえば小学校5年生の頃、真夜中に台風直撃、我が家の屋根が吹き飛ばされたぐらいのものか。公務員官舎だったこともあり、あっという間に直ってしまった。覚えているのはあの一夜の妙な高揚感。今も大型台風関東直撃かなどの予報に触れると秘かなわくわく感が湧き出す。

当時の被災状況（場所は不明）



一方、地震は怖い。震度2程度でも震え上がる。新潟地震、阪神淡路大震災、新潟県中越沖地震、東日本大震災、熊本地震。わが身に降りかかるのは何時のことか。そこで地震災害というものの体験事象と心象を書いてみることにした。

筆者は都市再生の制度インフラ整備のため建設省（現国土交通省）が設置した「法整備検討委員会」の委員をしていた。そんなある日、阪神淡路大震災が発生。委員たちは其々のルートで現地踏査をすることになり私は発生3日目に現地入りした。未だくすぶる焼け跡から焼死体発見などの場面にも何度も遭遇。筆舌に尽くしがたいとはこのことと思った。そんな中、すすけた身なりで手をつないで歩く親子を見た。子供は中学生くらいか。母より背丈も大きい男の子だ。家族を亡くしたのか、家財産を失ったのか。普段なら母の言うことなど歯牙にもかけぬ男の子が母の

手を握り消沈の母をいたわるかのように寄り添い歩いていた。胸が締め付けられた。あの光景、今も思い出すと込み上げるものがある。

今筆者は、東日本大震災で岩手県宮古市の復興に向け、微力ながらお手伝いをしている。地震発生後1年ほどたった夏のある日、筆者は宮古市にいた。とある広場で太鼓の演奏が聞こえる。地元水産高校の男女20名ほどであろうか、熱演していた。額には球の汗、迫真の演奏は天空をも突き抜けよとの魂のほとばしりを感じた。副市長が私に近づいて来て言った。「この中には親兄弟、友人を津波で亡くした子がたくさんいるんですよ」。この元気さの裏にそんな悲しみが隠されているのか。元気さは喪失感の裏返しなのか。衝撃を受けた。

災害による不幸に何時襲われるのか誰にも分らぬ。筆者は思う。災害にあってしまった時、まずもつての大事は「遺族を創らぬこと」。眉を顰める方もおられようが、死んでしまった本人はもう何もわからぬ。だが遺族の苦しみ、悲しみはそこから始まる。癒えるには途方もない時間がかかる。トドのつまりは、自らが己の遺族を創らぬ心構えを持たなければならないということか。自らが生き延びる覚悟を以って備えをなくしてはならない。

自主防災隊消火班は地震発生時の火災に際し、初期消火を行うことで災害拡大を最小減に抑えることを任務としている。本当に効果を発揮するのか、その時になってみなければ分らぬが、少なくとも遺族を創らぬことに寄与する志を以って訓練を怠らぬことが肝心なのだと思う。



じゅんばん・まちかど防災訓練で
日頃の備えを確認しましょう



地震から命を守る「7つの問いかけ」

6月に大阪北部を震源とする地震が発生したのは記憶に新しいと思います。備えあれば憂いなし。特に身近に配慮や支援が必要な方がいる場合には、日ごろからの備えをし、被害にあわないことが重要です。東京消防庁では地震から命を守る「7つの問いかけ」を提唱しています。あなたのご家族、ご近所で配慮や支援を必要としている方はいらっしゃいますか？地震が起こったときの状況をイメージし、支援や配慮が「自分に必要とされないか」、「周りに必要となる人はいないか？」考えてみましょう。

問いかけ①：ゆれから身を守ることができますか？

- 転倒、落下、移動してくるものから身を守りましょう。
- できるだけはやく安全な場所に身を寄せましょう。

問いかけ②：ゆれの後、危険に気づくことができますか？

- 煙の臭いやガス漏れの音など、身のまわりに危険なサインがないか確かめましょう。
- ガラスの破片でケガしないよう、手袋や履物などを身に付けてから動きましょう。
- 大声で助けを呼べないときは、笛などの道具を使いましょう。

問いかけ③：自分で火を消すことができますか？

- 火災に気づいたら、周りの人や消防署に知らせましょう。
- 消火器などが使える場合は、火が小さいうちに消しましょう。

問いかけ④：大切な情報を、知ることができますか？

- 隣近所に危険が迫っていないか、確認しましょう。
- 防災無線や広報車のアナウンス、テレビやラジオなどからの情報を確認しましょう。
- 情報を手に入れるのに支援が必要であることを、周りの人に知らせましょう。

問いかけ⑤：頼れる人と、連絡を取り合うことはできますか？

- 通信会社が実施している災害時の伝言サービスなど、様々な方法で連絡を取りましょう。
- 自分で連絡できない場合は、周りの人にお願ひしましょう。

問いかけ⑥：命にかかわる大切なものは何ですか？

- 薬、医療機器のバッテリーやアレルギー対応食品などがどのくらい残っているかを確認しましょう。
- 病院や薬局などに、通院や薬の処方ができるか確認しましょう。

問いかけ⑦：安全に避難することができますか？

- 早めの避難を心がけましょう。
- 避難に支援が必要な場合は、周りの人などにお願ひしましょう。

大きな地震が発生したら自分と隣近所の被害を確認してお互いに助け合いをしましょう。

鯀絵シリーズ④

地震 雷 過事 親父



地震、雷、火事、親父」ということわざは、わが国に古くから言いつたえられた、恐いものの代表とされている。この鯀絵で“過事（くわじ）”とあるのは、江戸一流の当て文字で“火事”のことである。

地震を意味する町人風態の鯀と、恐ろしい鬼の雷と、職人風態の火事を擬人化し、ご馳走を前にしての、三人の話のやりとりを構図にしたもので、人々に言いならされたことわざと、地震とを引っかけて表現しようとしたところがこの鯀絵の見所となっている。

まず親父が善人顔（づら）をして、地震、雷、火事のそれぞれの現象を取締る神であるところの、火の神様の「回祿」、雷の神様の「加茂大明神」、地震の神様の「鹿島太神宮」（地を守る神）にお願いして「神縛りにしてしまわざあいくめえ」と言わせていることからこの鯀絵の話の始めている。そして、擬人化した地震、雷、火事の三人とは別扱いにして、鯀絵の最大の購入者である親父の顔を立て、他の三人の会話だけを浮ぼりにして、悪者に行っているのがこの鯀絵の特長である。

まず、火事が雷に向かって、お前は久しく音がしねえぜと、おとなしくしているの“音”を引っかけて洒落れており、雷の答は“四年前の一嘉永四年（1851）江戸大雷雨一の大暴れで、太鼓は打ち折る、腰骨は強打するで天竺にも帰れねえから、天竺浪人だ”と言わせ、鯀に向かって、“この間の大揺れ（安政大地震）は何事だ”と問いつめ、鯀は地震で大火になったのは、水の中で火事は知らねえ”とうそぶいているが、“地震の原因は陰陽の気が和順しないと面白くねえから、大ふざけをやるのさ”と言わせて、地震の発生原因を説明させ、火事が地震に向かって、“四季の気が違って乱心し仲間中が躍ったり、ひっくりかえると地震になるのか”と問うと、鯀は、“自分自身でもわからねえ”と無責任に言いのがれている。

江戸時代の人々は、地震と鯀との拘わりあいをこのように考えており、地震を起こす原因は鯀にあると、素朴に信じていたことがこの鯀絵でもうかがうことができる。

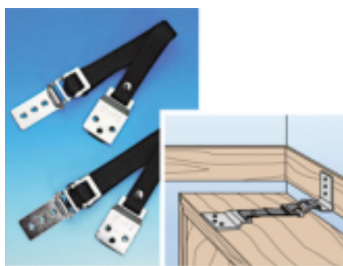
この鯀絵は、「地震、雷、火事」は、恐いものの代表で、親父（この鯀絵のお客様）さんは別だとした、擬人法で表現した典型的な江戸時代の地震鯀絵である。

特集 地震時の身の安全をはかる家具の固定 (再掲載)

大地震のとき、皆さんの家の寝室や居間は安全な空間が確保されていますか？大きな家具やガラスなどが凶器と化します。特に寝ている場所の回りをチェック。高いタンスの前に布団を敷いて寝ていたり、エアコンの真下に寝ていたりしないように。家具の置き場所を総点検し、下記の防災グッズなどを役立てて対策しましょう。



【転倒防止伸縮棒】・・【家具と天井の間に段ボール箱】 【とびら開放ストッパー】 【冷蔵庫用ストッパー】



【ベルト式転倒防止金具】 【樹脂製転倒防止プレート】 【テレビ転倒防止金具】 <テレビの底部> 【粘着性耐震マット】

加えて、大きな家具や重い家具は、なるべく1階に配置して固定するようにしましょう。また、引出しストッパーや開き戸ストッパーの設置が重要です。二段式の家具であれば上下の固定も必要です。また、たんすや棚以外にも、近年家庭に普及した薄型液晶テレビやパソコン、プリンターなど、置き式の家電の転倒防止対策も重要です。阪神・淡路大震災の被災者は、これらの家具類が「飛んできた」と証言しています。粘着性マットで台にしっかり固定しましょう。特に薄型液晶テレビはととても不安定で危険です。図のように画面サイズ（インチ）に合った、粘着性マットで固定してください。

阪神・淡路大震災時に、建物の中でけがをした人の約半数（46%）は家具の転倒、落下が原因だったという調査結果があります。これにガラスの飛散によってけがを負った人（29%）を加えると、実に4分の3の人たちが家具やガラスで被害を受けたことになります。つまり、家具をしっかりと留めて、ガラスの飛散防止対策を施せば、震災時にほとんどの人はけがをしなくて済むことになります。固定方法にお悩みの方は、自主防災隊にお気軽にご相談下さい。

編集後記

やはり「水」である。西日本の豪雨災害のニュースを見ていて感じたのは、被災した人が最初に直面する問題が水の確保なのだ、という事。この防災ニュースでも、繰り返し災害に対する備えが掲載されている。被災した時の状況は、被災していない私にとっては非日常であり、実感が湧かない。それを自分の事として日々捉えて備えるためには、自分自身に繰り返し備えについての知識を刷り込むことが一番なのだと感じる。

今日、自宅の倉庫の水を久しぶりに確認した。やはり足りていない。今の我が家の備蓄は、家族が1週間生き延びるには、はなはだ心もとないもの。もう少し買い足しておこうと思う。